



こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党
八千代市議団
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>

日本共産党八千代市議団メール：kyousan@jcp-yachiyo.jp



第635号

2024年5月20日

発行

日本共産党

八千代市議会議員団

八千代市大和田新田

312-5

千葉県へ教育などに関する要請を実施

5月17日、日本共産党千葉県地方議員団は、千葉県へ国民健康保険と教育行政について要請を行いました。八千代市議団も要請に参加し、これまでの市議会答弁や市民からの声をもとに質疑を行いました。

一人ひとりに目が届く教育条件の整備を

教育行政に関する要請では ①教員の未配置解消 ②公立小・中学校の給食費無償の対象拡充 ③学級編制の弾力的運用 ④スクールカウンセラーの常勤配置 ⑤スクールサポートスタッフの常勤配置 ⑥県立高校の統廃合問題 ⑦特別支援学校の新設・増設 ⑧特別支援教育支援員の常勤配置 ⑨県立学校の施設整備費増額 ⑩県立学校配分予算の増額など多岐にわたり要請を行いました。

学級編制の弾力的運営は教員未配置に利用？

現行の35人学級から40人学級も可能とする「令和6年度公立小中義務教育学校における学級編制の弾力的運用について(通知)」は、実は平成23年に一度出されていたものです。しかし、平成23年は、現在ほど少人数学級が進んでいない時期です。子どもたちの教育環境の背景にも違いがありました。

質疑の中で、県が当時の通知を再び持ち出した事について、「教員の未配置を解消するために行ったのか」との追及がありました。“先生が足りないのであればクラスを減らすために40人学級に戻してしまえ…”との安直な考えが見え見えではありませんか。

これに対し千葉県は、「以前からあった通知を再度出したにすぎない」と言わんばかりの答えでした。

少人数学級の実現については、令和3年4月施行の法律改正によって、約40年ぶりの学級編制の標準の一律引下げが実施された直後であっただけにひどい話です。先進国では、子どもたち一人ひとりに目が届くように「20人～30人の少人数学級」は当たり前となっていますから、再度の通知は子どもたちの教育環境を劣悪に戻すもので容認できません。

スクールカウンセラーの配置が前進

八千代市でも保護者からの要望が高いスクールカウンセラーの常勤配置について、千葉県から一歩前進といえる回答がありました。これまで1校に月1回とされていたスクールカウンセラーが月2回の隔週で配置されることに。しかし、小規模校と大規模校では予約待ちに差が出ています。大規模校では3ヶ月待ちになる自治体もあるため月2回では追いつきません。日本共産党は常勤配置となるように要望しました。

給食費の無償化と食材充実の補償を

八千代市議団からは無償化の対象拡大を求めました。千葉県が底上げを行うことで自治体の底上げにもつながります。また、無償にすることで食材が劣悪になるようなことがないように学校給食会についても追及しました。

※国民健康保険について千葉県へ要請した内容は後日報告させていただきます。